国際理解教育/開発教育　学習指導（活動）

【実践者】

授業者氏名	平井　禎	学校名	東京都 小笠原村立 母島中学校
教科（科目）・領域	社会科・地理分野	対象学年（人数）	１年　１組　（３名）
実践年月日もしくは期間（時数）		令和３年１２月６日（月）　～　１２月１７日（金）【全７時間】	

【実施概要】

1. 単元名(活動名)：　住み続けられる小笠原の未来を考えよう
（世界の諸地域・南アメリカ州の学習とＳＤＧｓの視点を通して）

2. 実践する教科・領域：
社会科　地理的分野

3. 学習領域

	1	2	3	4
Ａ多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
Ｂグローバル社会	相互依存	情報化		
Ｃ地球的課題	人権	（環境）	平和	（開発）
Ｄ未来への選択	歴史認識	（市民意識）	社会参加	

4. 単元の目標（評価規準を意識して設定）：
（１）南アメリカ州の地域的特色や課題を諸資料から適切に読み取り、理解する。
（２）南アメリカ州と小笠原諸島で見られる地球的課題の要因や影響を、地域的特色を踏まえ、多面的・多角的に考察させ、公正に選択・判断・表現する。
（３）南アメリカ州と小笠原諸島の持続可能な発展を視野に、その中で見られる課題を追求させることで、よりよい国際・地域社会を築くための考えをつくろうとする。

5. 単元の評価規準		
	①知識及び技能	南アメリカ州の地域的特色を諸資料から適切に読み取り、理解している。また、課題解決に向けて必要な情報をまとめている。
	②思考力、判断力、表現力等	①南アメリカ州で見られる地球的課題の要因や影響を、地域的特色を踏まえ、多面的・多角的に考察し、公正に選択・判断・表現している。 ②上記学びを通し、小笠原諸島における現状や課題を多面的・多角的に考察し、公正に選択・判断・表現している。
	③学びに向かう力	①南アメリカ州の持続可能な発展のための課題をよりよい方向に解決していこうと、主体的に追究している。 ②上記学びを通し、小笠原諸島の持続可能な発展のための課題をよりよい方向に解決していこうと主体的に追究している。

6. 単元設定の理由・単元の意義 （児童/生徒観、教材観、指導観）	【単元設定の理由あるいは単元の意義】 「小笠原諸島・母島から世界的な視野を持った生徒を育成したい」 そのために本単元での学習が特に有効であると考え、設定した。 母島はその物理的距離から他地域との接点を見出すことが容易ではなく、この点を補うことが潜在的な課題になっている。今回取り上げる南アメリカ州は日本、そして母島からも最も離れた地域であるが、実は結びつきや共通点があり、その点において効果的な学習ができると考えた。（以下、教材観にて） 今回ＪＩＣＡ地球ひろばの協力を得て行う上でも、南アメリカ州の教育的資料やノウハウを保持していることがあり、非常に有効である。 上記した私自身の思いや、本校の教育的課題の一つを解決できる単元であるといえる。 【生徒観】 ３名という学級人数から、落ち着いた学習環境が保たれている。また３名とも幼少期から知る仲であることから、発言を行いやすい状況にある。ただ、その分多角的な考えを容易に獲得できない環境にあることから、それを補う指導者側の工夫が求められる。 ９月当初、道徳科において「地域社会の一員を問うアンケート」を実施した。その際、「よりよい社会の実現」に必要な考えを「持続可能」と結び付けている記述がみられた。そして１０月以後に実施した道徳の授業や校外学習を通して地域社会への思いは深化している。本単元では、この思いを世界的課題の解決と結び付けることで幅広い視野を育みたいと考える。 【教材観】 南アメリカ州と小笠原諸島には同じ地域的課題（開発と環境保護の両立を踏まえた、持続可能な発展の必要性）があり、世界の諸地域を学ぶ上で生徒が最も「ジブンゴト化」できる単元である。 世界の諸地域学習の最後に南アメリカ州を学び、それを地域社会の課題解決に結びつける一連の活動に、大きな学習効果や意義があると私は考える。 【指導観】 ①併置小学校における「ユネスコ学習」の既習内容を、本単元と効果的に結び付ける。 （母島小学校はユネスコスクールに登録されている） ②総合的な活動における校外学習（本年度９月実施・平島移動教室）での学びの成果をＳＤＧsの観点から活用する。自然環境のよさに改めて気づくと同時に、海洋ゴミや外来種の侵食について学んでいることを前提とする。 （平島は母島列島にある無人島で、世界自然遺産・小笠原諸島の構成資産の一つである。） ③２学年時の学習項目「地域の在り方」（身近な地域における課題解決学習）において、本単元を活用した学びを展開する。 ④３学年時の修学旅行において国際理解教育プログラムを組み、世界の諸地域学習における学びを発展させる。

7. 単元計画（全７時間）

※全体の総時間数や「本時」の記入場所は適宜変更してください。

時	ねらい	学習活動	資料など ※：JICA リソース活用はここに記載
1	**南アメリカ州の概観をつかむ** （教科書Ｐ１１６・１１７ 『南アメリカ州をながめて』） ・南アメリカ州の自然、文化、産業の特色について、基礎的、基本的知識を身に付ける。 ・南アメリカ州が経済発展を遂げてきたことをつかむ。	①資料の読み取りと考察 ・南アメリカ州の統計データ ・気候帯、気候区、各主要都市の雨温図 ・GDP や輸出品の変化、鉱産資源の分布 ②まとめ　記述 ・南アメリカ州が経済発展を遂げてきた理由をまとめる。	・教科書 ・資料集 ・ワークシート ・動画 （NHK for School 南アメリカ州導入動画　等）
2	**南アメリカの人々が自然と共生してきたことを、アマゾン川流域の生活から理解する。** （教科書Ｐ１１８・１１９ 『自然環境と共生する生活』） ・南アメリカ州では、環境をどのように利用しながら生活してきたのかをつかむ。	①資料の読み取りと考察 ・焼畑農業のサイクル ・世界の森林減少率 ②まとめ　記述 ・アマゾンの生活から、自然との共生について自分自身の考えをまとめる。	・教科書 ・資料集 ・ワークシート ・動画 （「世界行ってみたらホントはこんなトコだった！？」ブラジル編）
3	**南アメリカで行われている開発の進行が、どのような影響を与えているかを理解する。** （教科書Ｐ１２０・１２１ 『開発の進行と影響』） ・南アメリカ州の開発状況とその影響をつかみ、２０３０年に向けた優先的な課題解決を模索する。	①　資料の読み取りと考察 ・ブラジル政府や現地企業のアマゾン開発 ・バイオエタノールの生産量の移り変わり ②　多角的な視点からの考察　対話活動 ・「EU 諸国」「ブラジル政府」「アマゾンの先住民」の視点から経済発展への考えを記述し、対話活動を行う。 ③　まとめ　考察　（対話活動） ・南アメリカ州について、優先的に解決するべき課題について記述し、発表する。	・教科書 ・資料集 ・ワークシート ・動画 （NHK for School アマゾンの開発 さとうきび栽培 動画　等）
4	**ガラパゴス諸島における自然保護と観光の両立の取り組みを知る①** （教科書Ｐ１１９ 『自然環境と共生する生活』） ・ガラパゴス諸島の魅力や、小笠原諸島との共通点などを理解する。	①ガラパゴス諸島における基本知識の獲得 ・位置、気候、産業など ②まとめ　（対話活動） ・多くの観光客を魅了する理由や、小笠原諸島との共通点について意見を出し合い、共有する。	・教科書 ・動画 「憧れのガラパゴスに桝アナ感動!!桝アナの折り紙動物園番外編」 （ＺＩＰ公式ｃｈ）
5	**ガラパゴス諸島における自然保護と観光の両立の取り組みを知る②** （教科書Ｐ１１９ 『自然環境と共生する生活』） ・ガラパゴス諸島が歩んだ近年の歴史や、現在の自然保護の取り組みから「持続可能な開発の大切さ」を理解する。	①右記 NPO 法人・奥野玉紀様からの講話や対話を行い、以下の事柄を理解する。 ・ガラパゴスの豊かな自然環境 ・自然環境悪化の歴史と要因 ・持続可能な発展への取り組み ②まとめ　考察　フィードバック ・「特に印象に残ったこと、その理由」を記述して発表する。その内容について講師から、フィードバックを受ける。	・「NPO 法人日本ガラパゴスの会」 出前授業 （オンライン） ・教科書 ・ワークシート

6	**まとめ学習① 小笠原の課題をつかむ** 小笠原における地球的課題を、生徒（３名）と教師の対話活動から見出し決定する。	①資料の読み取りと考察 ・小笠原村関連資料 「第四次小笠原村・総合計画」 「小笠原村人口ビジョン・総合戦略」 ・動画 「東京 MX テレビ　小笠原関連ニュース」 より、概要をつかむ。 ②まとめ　考察・共有　（対話活動） 南アメリカ州やガラパゴス諸島の学びを参考にして、小笠原の課題が SDGs におけるどの項目であるのか。生徒と教師の対話活動を経て、決定する。	・ワークシート ・小笠原関連資料 （左記） ・動画 1「小笠原諸島　世界遺産登録に住民は」 2「世界遺産登録から１年　人口増える小笠原　新島民に密着」 3「動きだした小笠原空港建設　島民たちの思い」 （東京 MX テレビ公式ｃｈより　３本）
7 本時	**まとめ学習② 小笠原の持続可能な発展を考える** 地域社会の課題追究が世界的課題の解決に繋がることを実感させたい。	①考察　対話活動 ２０３０年に向けて、小笠原が優先的に解決すべき課題を、対話活動より決定する。 ④　まとめ　考察　発表 未来のよりよい小笠原に向けて、解決すべき優先課事項を定め、それに対して自分自身に何ができるかを考えて発表する。	・ワークシート ・小笠原関連資料 (令和３年度　小笠原村村民意向調査結果) ・他学年からのアンケート結果

8. 本時の展開（概略）

本時のねらい：小笠原の課題について多面的・多角的に考察し、

「住み続けられる、よりよい未来の小笠原像」を構想する。

<table>
<tr><th>過程･時間</th><th>教師の働きかけ・発問および学習活動</th><th>指導上の留意点
（支援）</th><th>資料（教材）</th></tr>
<tr><td>導入

５分</td><td>本時のねらいの提示と前時の内容確認

「今までの南アメリカ州の学習、前の時間での小笠原での内容を確認しましょう。」
↓
「そして、君たちは２０３０年から先、未来における世界・日本・そしてこの小笠原を担う人材です。
その自覚をもって今日の授業で学びを深めましょう。
今日のテーマは、【住み続けられる小笠原の未来を考えよう】です。」

（以下の３点を確認し、SDGs 目標１１を達成すること）
①第３時・４時で扱った、南アメリカ州の学習について。
②第６時で扱った、小笠原における「現状・課題・様々な立場における考え」について。
③生徒自身がこれからの地域社会の担い手であり、諸課題の解決を構想する必要があること。

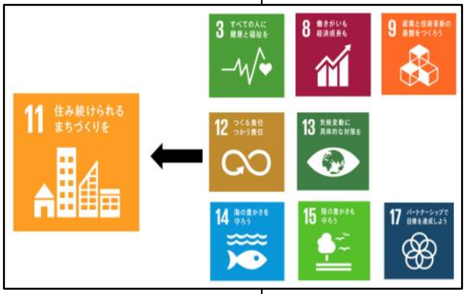
「今日のテーマ、ＳＤＧｓ１１に迫るためには、様々な課題があることを４人で共有しました。
再確認しましょう。

・３番【すべての人に健康と福祉を】
遠隔地であるが故の医療体制の脆弱さ。

・８番【働きがいも、経済活動も】
一定の人口を保つためには、島の魅力を感じながらも、経済活動を活発化しなければならないこと。

・９番【産業と技術革新の基盤をつくろう】
持続可能な観光業を発展させる必要があること

・１２番　【つくる責任・つかう責任】
空港が建設されたとしたら、それを持続的に使用する必要があるという意見が出ました。</td><td>・電子黒板等を利用することで、前時の振り返りを効果的に行う。


</td><td>・ワークシート
・電子黒板
（スライド）</td></tr>
</table>

<table>
<tr>
<td></td>
<td>・１３番【気候変動に具体的な対策を】
近年、気候の変動で季節外れの台風が発生し小笠原影響を与えています。その対策の必要性を確認しました。

・１４番【海の豊かさを守ろう】
・１５番【陸の豊かさも守ろう】
地球環境全体から考えた、小笠原の自然保護の重要性と、地域に住む人々の自然に対する思い。島民アンケートでは、世界遺産に認定されてから自然環境が悪化したとの意見もありました。

・１７番　【パートナーシップで目標を達成しよう】
環境保全について、島民や様々な立場の人同士が協力しあうことの必要性を確認しました。</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>展開１

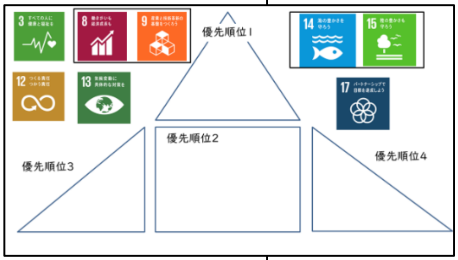
２５分</td>
<td>①問いの提示　【２分】（働きかけの言葉は、以下同様）

「あなた方３名は、日本ユネスコ国内委員の一員として、パリで開かれるユネスコ総会に出席し、２０３０年のよりよい小笠原像を世界に発信することになりました。これまで多くの小笠原の課題や現状を知りましたが、どの課題から優先的に解決していくべきか、対話をして意見をまとめてください。
　また、解決に向けた取り組みには資源・時間などの限界があることを前提にしてください」

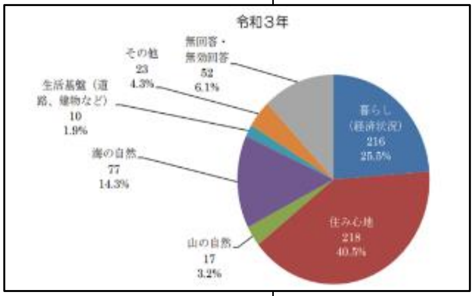
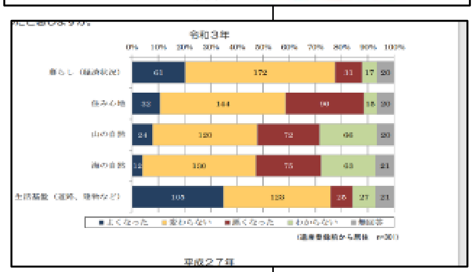
②個人作業【７分】
（優先順位の１位～４位・個人の見解の記述）

「個人で考えてください。SDGs 目標の何番を最優先に解決していきますか。また、優先順位１位の記述については、自分なりの根拠を必ず添えましょう。」

【予想される最優先に選ぶ課題と理由】
・自然環境の保護　（SDGs１４・１５）
自然環境があるからこそ、小笠原に人が集まる
地球的な視野での環境保全が何よりも最優先
・観光資源を活用した経済発展　（SDGs８・９）
経済的な基盤を強化しないと、住み続けられない
・医療の充実を図るための空港建設　（SDGs３・１２）
安心して生活できる医療体制が何よりも必要</td>
<td>・ユネスコ総会の場をイメージさせる。


・SDGs「8・9」と「14・15」は同系統で一括りとする。

・ミニ SDGs シールを用意し、優先順位の場所に貼る。
（見た目も楽しく）</td>
<td>・ワークシート
・電子黒板
（スライド）</td>
</tr>
</table>

	③グループ討議と理由の記述【９分】 （討議　→　共通の優先事項と理由を決定する） 「個人で記述した内容をもとに、３人で対話をして、 共通の最優先課題を１つに絞ってください。 ３人とも同じ課題・同じ理由をワークシートに記述 すること。 また、発表する際の代表者も１名決めてください。」 **④代表者発表【２分】** 「では、３人で決めた最優先課題と、理由を発表してく ださい。ユネスコ総会で全世界に対して発表すること を想定して表現してくださいね。」 **⑤多角的な視点から考察する　【５分】** （資料配布・提示　→　教師を含めた対話を行う） 「令和３年度に小笠原村民にとったアンケート結果を 配布します。これをもとに、先生を交えて対話を しましょう。率直な意見を聞かせてください。 また、母島中の２・３年生の意見も配ります。 先輩がどのような考えを持っているかも参考にしま しょう。」 右資料　令和３年度　小笠原村村民意向調査より 「あなたが小笠原村で生活している中で最も大切に していることは何ですか」 「小笠原が世界自然遺産に登録される前と後で、 あなたは生活や自然がどのように変化したと感じ ますか」	・討議の進行具合により、指導者がファシリテーションを行う。 ・決定ができない場合は、それに至った経緯を説明する。   ※上記資料は、添付資料に拡大して提示されています。	

展開２ １５分	**①問いの提示　【２分】** 「未来のよりよい小笠原を担うあなたには、どのようなことができるでしょうか。」 **②個人作業　【８分】** 「本日の、今日のテーマに対する自分自身の考えをまとめましょう。小笠原にとって２０３０年に向けて最も優先すべき取り組みを選びましょう。そして、それを選んだ判断理由と、今の自分にできる解決策を記述してください。 その際、①南アメリカ州の学習　②ＳＤＧｓの視点を必ず文章に入れることを条件とします。尚、評価Ａ～Ｃについての基準もよく目を通してください。」 **③発表　【５分】** 【予想される記述内容】 ・現状の小笠原を知ること。 ・世界的な視点から小笠原を見ること。 ・この自然環境を大切にすること。 ・小笠原の発展に向けた具体的行動を起こすこと。 （実家の稼業を継ぐ　地域社会へのボランティア）	記述が進まない生徒へのサポートを行う。 生徒の「考え」自体に対して、肯定的に受け止め評価する。	
まとめ ５分	**本日の授業の振り返りを行う** （①自己評価　②単元を通した学習の感想の記入） 「それでは、最後に今日の授業を振り返って自己評価を１～４で。そして、この南アメリカ州の学習全体を通して感想を書いてください」 「これで、中学校１年生で学習する世界地理分野の授業は終了になります。世界の様々な現状や課題を知る学習、君たちにとってはどのように感じましたか。」	ワークシートの自己評価や感想に対して、フィードバックを行う。 記述を終え、ワークシートを回収した後のタイミングで、簡単に教師による説話を行い、対話をしながら授業を終了させる。	

9. 評価規準に基づく本時の評価（評価方法）

以下（A）～（C）評価を【ワークシートでの記述】と【発表の様子】から判断して行う。

（A）Ｂを満たしつつ、「南アメリカ州の課題」「SDGs の対応項目」と関連させることで、小笠原の課題を「ジブンゴト」として捉えて説明している。同時に、中学生としてできる課題解決に向けた考えを説明している。

（B）小笠原の課題を多面的・多角的に捉え、自分なりの言葉で説明している。

（C）小笠原の課題を多面的・多角的な視点から捉えらえていない。

10. 学習方法および外部との連携

（1）学習方法

① 課題解決型の学習により、関心や意欲を高める。

② ３名による対話的な活動を取り入れることで思考力の向上を図る。

（コロナ感染防止策として、生徒同士の距離を保ち、教室の窓やドアを一部開放するなどの措置を行う。また、他教科の教員にも授業参観を促すが、人数が多い際にはオンラインで配信し、他教室にて参観できるよう配慮を行う。）　※なお、実施時にこの措置は行うことはなかった。

（2）外部との連携

① 「NPO 法人　日本ガラパゴスの会　出前授業（オンライン）」の活用

1　多角的な視点を創出したいこと

2　離島という地理的条件から、他地域の人々との交流が薄いこと

3　私自身がガラパゴス諸島（エクアドル共和国）の事情に精通していないこと

以上の点から、上記講座の活用が有効と考える。

② 小笠原村との連携

小笠原村の現状や将来へのビジョンを知る上で、自治体を通して情報を得ることが効果的である。

（なお、上記 NPO 法人は東京都・小笠原村との繋がりを持ち、過去に交換留学【小笠原・ガラパゴス間】を実現させている。来年度から、活動を本格再開させる予定である）

11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み

（1）学校内においての取り組み

本研修の趣旨や内容は、校内夏季研修報告会にて報告をした。

今後は

①研究授業の公開

②本研修の資料等を職員間で共有

③来年度からの総合学習への導入

④小学校との連携による国際理解教育の波及　　などを行う予定である。

（2）学校外に向けて

①村教育委員会を通して、村内の他校（父島の小笠原小学校・中学校・高等学校）に事例を紹介。

②国際理解教育を地域社会の課題解決学習と関連づける指導を今後も継続、発展させていく。そして本校同様の教育的課題、悩みを抱える全国の離島に発信していくことで貢献を果たしたい。

【自己評価】

12. 苦労した点	多角的視点の創出 本校全体が向き合う課題であるが、今回もこれに苦労した。特に対話活動においては、３名が３名とも同じ考えのもとに、スタートされた時もあった。対策について下記「成果が出た点」にて紹介する。
13. 改善点	他教科や他校種との横断的・縦断的取り組みの実施 国際理解教育は、専門教科の授業のみで実施するには限界がある。いかに、他の教科や他校種との連携が大切であるかを実感した。 例えば、総合学習における校外活動と絡めればさらに深い学びになる。今回は「指導観」で記した平島移動教室（１学年・総合）との横断的取り組みが不十分であった。来年度に向けて、具体的な提案を年度内に行いたい。 また、他校種（私であれば小学校にあたる）において、予備知識を入れていれば、スムーズに課題解決学習へ移行できる。この点、本校は小中併置校であるのでとても連携を行い易い。小学校との縦断的取り組みを進めることで改善をしていきたい。
14. 成果が出た点	多角的視点を創出するための取り組みに、大きな効果があったこと 本校の課題解決のために、本単元では「オンライン出前授業」「教師自身が生徒の対話に入る活動」「他学年の意見をとり入れた展開」等を実施した。その中で、考えが変容した生徒や、自らの考えを更に深めた生徒が出てきた。（以下、学びの軌跡にて詳細を記すこととする。） また、当初は対話活動が苦手であった生徒もいたが、「視点が変われば様々な考えがあるので、自分の意見を表明することは恥ずかしいことではない」と感じてくれたようだ。その生徒が「本時」にて自らの考えをワークシートに記述し、他の生徒や参観していた本校教員、地球ひろばの諸先生方に向けて口頭で発表ができたことは、私にとって大変感慨深い。
１５．学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）	①１２月７日（火）　【本単元　第２時】 「自然環境と共存する生活は、あなたにとって大切なことですか」 （アマゾンにおける自然共生を学んだ後の考察） ②１２月８日（水）　【本単元　第３時】 「持続可能なアマゾンの開発についての考察」 ③１２月１３日（月）　【本単元　第５時】 「ガラパゴス諸島における持続可能な社会の作り方について　印象に残ったこと」 ④１２月１７日（金）　【本単元　本時】 ❶「個人で考えた、小笠原にとって優先すべき事項とその理由」 ❷「対話活動後、最も優先すべき取り組みとその理由　今の私にできること」 以上　①～④における「まとめ・記述内容」を抜粋、紹介し学びの軌跡とする。

	～生徒 A～ ① 自然との共存は大切である。このままだと地球は悪い方向に向かうと思う。 ② アマゾンを伐採していくと、地球温暖化が進む。しかし、今のブラジル政府の取り組みでは解決が難しいので、SDGs 目標１７「パートナーシップ」を意識して、他の国と協力していくことが大切である。 ③ ガラパゴスの住民が進んでゴミを回収している姿（母島への交換留学生が、母島の海岸を訪れた際に、自ら海洋ゴミを拾う様子があった）が印象に残った。小さい頃から自然を大切にしてきたのだろうと実感した。 ④ ❶ 最優先事項　SDGs１４・１５　「海・陸の豊かさを守ろう」 この島の自然を残していくべきだと思う。そのために、開発をしてよい場所と自然を残していく場所の区別をしっかりとするなど、ルールを厳しくしていくことが大切。 ❷ 最優先事項　SDGs８・９　「経済成長・産業と技術革新の基盤づくり」 人が住んでいるのだから、開発を進めたほうがよい。また、資金がないと様々な対策はできない。無理に自然と共存しようとはしないで、ブラジルのようにまずは経済を発展させたほうがよい。しかし、自然保護をまったく行なわないわけではなく、対策は行っていく。 ～生徒Ｂ～ ① 自然との共存は、まずまず大切である。「とても大切」と言い切れない理由は、アマゾンで考えられる「洪水」「飲み水確保」「気候の厳しさ」が自分自身としては耐えられないと感じたから。 ② 環境を守りながら、開発を進めるべきである。例えば、森林を伐採しても、その場所に再び植樹などをする。これらをしなければ、地球温暖化が進み結果的にはブラジルの人々が苦しむことになる。国民のことを第一に考えるならば、経済成長を緩めるしかないと思う。 ③ ガラパゴスでは、使いすてのプラスチックの使用を禁止している。島から出るゴミが減り、自然の生物を守ることもできる。また、ガラパゴスからの留学生が母島においてゴミを拾う姿が印象に残った。僕もゴミを拾うようにしたい。 ④ ❶ 最優先事項　SDGs１４・１５　「海・陸の自然を守ろう」 小笠原は自然が豊かなので、それがなくならないようにしたい。これが最優先事項である。 ❷ 最優先事項　SDGs１４・１５　「海・陸の自然を守ろう」 自然を守ることを優先すべきだと思う。ブラジルのように自然を壊して経済成長を進めてしまうと、空気が汚染され、森の生き物の住む場所はなくなる。また、森林を伐採しなかったとしても外来種が固有種を倒してしまうこともある。住民が協力して、森を守っていく必要がある。自分がこれから暮らしていくためにも、自然と共存する必要性を感じる。自然を守り続け、小笠原を守りたい。

	～生徒 C～ ① 自然との共存は、とても大切である。昔からこの世界は、自然に支えられている。自然なしでは、人々は生きることができないから。 ② 記述・提出できず。 ③ 記述・提出できず。 ④ ❶ 最優先事項　SDGs１７　「パートナーシップでの目標達成」 住民の数は少ないが、皆で団結して取り組むことで課題は解決できる。 ❷ 最優先事項　SDGs１７　「パートナーシップでの目標達成」 住民同士の考えが違えば、問題解決は進まない。まず、皆が同じ考えを持てば、問題解決が早くなると思った。
１６．授業者による自由記述	私が実践を行った中で、特に印象に残ったことを以下に記述します。 （1）「地域の課題を生徒自身で決定したことが、深い学びへと発展した」 　私の中では、この点が今単元のポイントであったと感じます。当初は、私自身が「予測していた課題」に導くような展開を構想していましたが、大津先生のアドバイスにより生徒自身で課題を決定する方向に変更しました。今思えば、これこそが「ジブンゴト化」であったと実感しています。 　また、私自身が生徒と同じ立場で対話に参加する試みも有効でした。私の考えが生徒の総意で却下されたことは、今振り返ると嬉しいものです。（その時は、なぜ・・・と思いましたが 笑 ） 　今回は３名だからこそ可能であったかもしれませんが、今後皆さんが課題解決学習を行う際には、生徒の考えを尊重した柔軟な展開を構想してみてください。 （2）「生徒の考えに深化・変容が様々に起きた」 「学びの軌跡」について、補足をします。 　生徒Ａは、当初の自然環境優先から最後には、経済面優先に考えが変容しました。彼は本時において最も葛藤した生徒です。授業後にその点を少し話題にしたところ、「今でも悩んでいます」とのことでした。 　生徒Ｂは、自然環境優先の思いを深化させました。彼にも授業後に質問をしてみました。私「今まで学校行事などで自然保護活動を行ってきたけど、その意義を考えたことはあった？」彼「あまり考えていませんでした。今回でかなり変わりました。」 　生徒Ｃは、自分自身の考えを規定時間でまとめることが苦手な生徒です。それ故に十分な記述ができず、考えを表明できないこともありました。しかし、本時では前時で「ジブンゴト化」した項目を、彼女らしくまとめることができました。このような彼女の成長を肯定的に評価していきたいと思います。

	（3）「出前授業（オンライン）の有効性を感じた」 今回、社会科の授業においては初めて、オンラインによる出前授業を取り入れました。これが、本単元の中で南アメリカ州と小笠原諸島を一気に近づける接点として、大きな役割を果たせたと感じています。講師の先生からお聞きした、ガラパゴス苦難の歴史や、現在に至る持続可能な社会づくりの苦労からは、私が当初予想していた以上の気づきを得ることができました。生徒の印象にも深く刻まれたようです。 今回授業を引き受けていただいた、「NPO 法人日本ガラパゴスの会」は、日本とガラパゴス諸島を結ぶ主事業の他、教育普及活動も行っています。もし、今後皆さんも興味がありましたら直接法人に問い合わせても差し支えないと思いますし、私平井までご連絡をいただければ仲介を致します。

参考・参照資料

（1）　主教材

①　教科書　（東京書籍　「新しい社会　地理」）

②　資料集　（浜島書店　「アクティブ地理総合」）

（2）小笠原関連資料　（小笠原村ホームページより）

①　令和３年度　小笠原村村民意向調査結果

②　第四次小笠原村・総合計画　（中期５ヶ年）

③　小笠原村人ロビジョン・総合戦略

「住み続けられる小笠原の未来を考えよう」

I組　番 氏名

南アメリカ州のテーマ

急速な経済発展は、その地域に住む人々に対してどのような影響を与えるのだろうか。

今日のテーマ

南アメリカ州の学習とSDGsの視点を通して、住み続けられる小笠原の未来を考えよう。

前回の授業で「合意・決定」した、未来の小笠原に関連する SDGs目標

11 住み続けられるまちづくりを

3 すべての人に健康と福祉を　（遠隔地なので、十分な医療体制が確保されていない。空港の建設はそれを叶えるが、これには様々な島民の意見があった。）

8 働きがいも、経済活動も
9 産業と技術革新の基盤をつくろう　（地域社会を維持するためには、様々な仕事を創出し、村の人口減少に対策をしなくてはならいない。その基盤をつくることが活気ある島の未来につながる。）

12 つくる責任・つかう責任　（空港の建設が多くの課題を解決する。ただし、建設した後に使用する中で、環境に配慮した持続的な施設にしていく必要がある。）

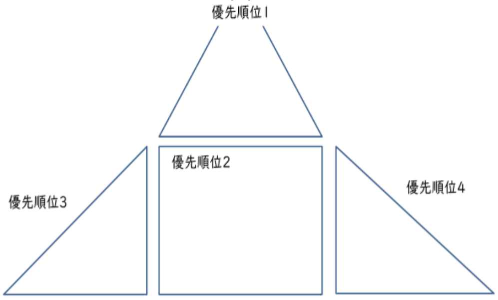
13 気候変動に具体的対策を　（近年の気候変動で、季節外れの台風が小笠原に影響を与えており、その対策が必要である。）

14 海の豊かさを守ろう
15 陸の豊かさも守ろう　（島の生活における魅力は、何といってもこの自然環境である。これは地球規模の課題にもなっている。）

17 パートナーシップで目標達成を　（様々な課題に対して、島民や様々な立場の人が協力することが大切である。）

あなた方3名は、日本ユネスコ国内委員の一員として、パリで開かれるユネスコ総会に出席し、2030年のよりよい小笠原像を世界に発信することになりました。これまで多くの小笠原の課題や現状を知りましたが、どの課題から優先的に解決していくべきか、対話をして意見をまとめてください。
（解決に向けた取り組みには資源・時間などの限界があることを前提にしてください）
※なぜ、その取り組みから優先すべきかの理由を明確にしましょう。

① 私が考える小笠原のロケット図



② 優先順位1位の理由（個人）

③ 3名により決定した、優先順位1位の内容　＝（　　　　　　　　　　　　）

その理由（簡潔に）

未来のよりよい小笠原を担うあなたには、どのようなことができるでしょうか。

① 南アメリカ州における学習　② SDGsの視点（左記参考）　この2点を踏まえつつ、

小笠原にとって最も優先すべき取り組みをとらえて、それを選んだ判断理由を書きながら、

「今の自分にできること・解決策」を記述してください。

私が考える、小笠原が最も優先すべき取り組み ＝【　　　　　　　　　　】

【評価 第2観点 思考・判断・表現】（　　　）

評価について

（A）Bを満たしつつ、①「南アメリカ州における学習」「SDGsの視点」と関連させることができている。

②中学生としてできる課題解決に向けた考えを説明している。

（B）小笠原の課題をとらえ、一番に解決すべき理由を説明している。

（C）小笠原の課題をとらえておらず、一番に解決すべき理由がないなど（B）を満たしていない。

本日の授業の振り返り　1 よくできた　2 おおよそできた　3 あまりできなかった　4 まったくできなかった

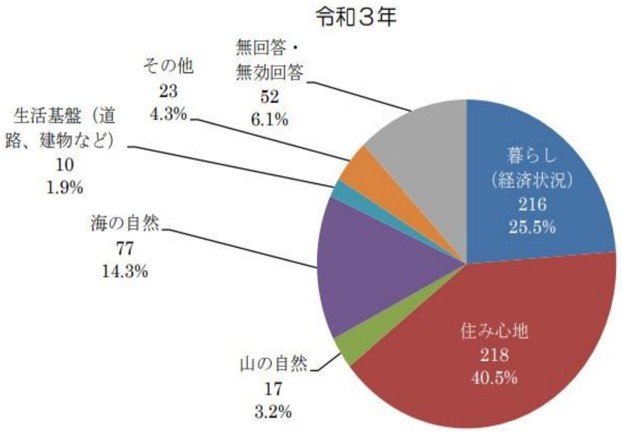
（1）ユネスコ国内委員として・個人作業 【　】（2）同・グループ作業【　】（3）私が考える、よりよい小笠原への記述【　】

南アメリカ州・小笠原に関する授業を通して、感じたこと・考えたことを書いてください。

※授業参観された先生方から、あなたの考えや発言に対するコメントをお願いしています。

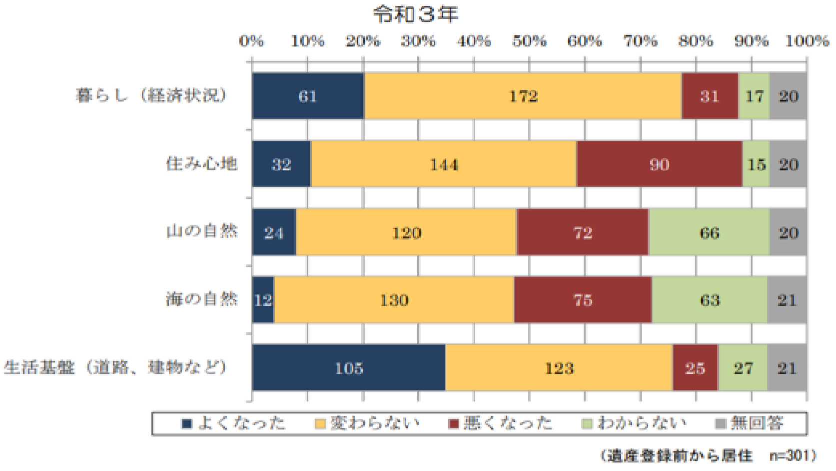
小笠原関連資料　　【令和3年度 小笠原村村民意向調査より】

①「あなたが小笠原村で生活している中で最も大切にしていることは何ですか」



母島中学校 2・3年生の回答 (7名)		
A 暮らし（経済状況）	1名	・あまり最近は自然と触れ合う機会がなく、考えることがない。
B 住み心地	4名	・自然ばかり気にすると、人間の生活ができなくなるから。 ・生活する上で、住みやすさは大切だから。 ・住み心地がわるいとストレスになるから。
C 海の自然	2名	・島なので海がきれいで、一番魅力的だと思うから。 ・海はきれいであってほしいと思っている。

②「小笠原が世界自然遺産に登録される前と後で、あなたは生活や自然がどのように変化したと感じますか」

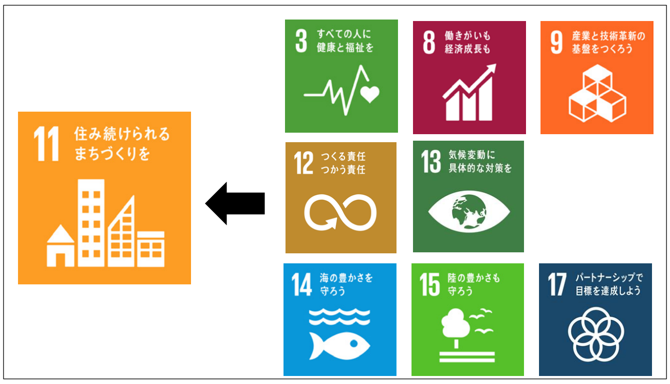


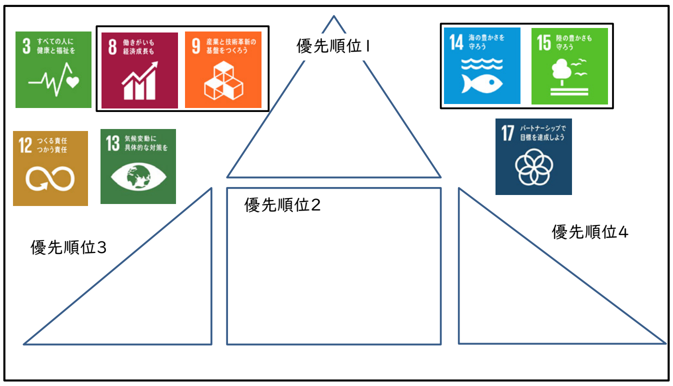
③「10年・20年先の小笠原がどのような姿になっていることを望みますか。開発と環境保全の視点から書いてください。」

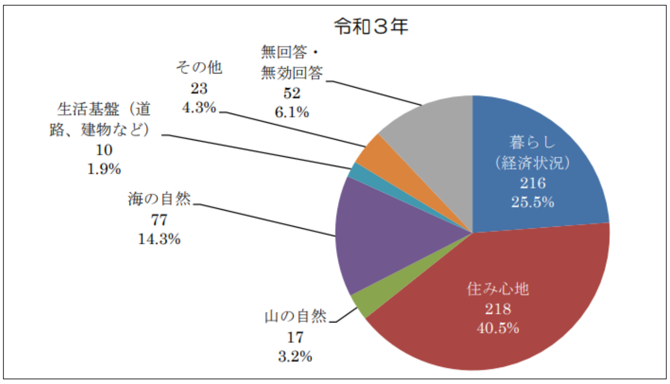
母島中学校 2・3年生の意見 (7名)

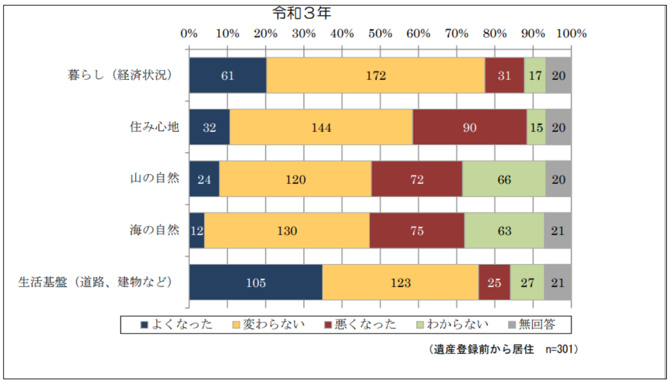
・自然のことよりも、人の生活のことも考えてくれる島になってほしい。もっと便利になることが大切。
・自然環境のために、電気自動車が走り、父島には大きな総合病院がある。
・開発は、自然と共生できるものにしていく。若い世代の人が環境を守っていく。
・開発が進みながらも、自然環境の保全をしていくことを望む。
・開発も自然環境への配慮も進み、もっとよい島になってほしい。便利な施設（コンビニ）や環境を高める活動の両立を。
・人が住む場所はあまり変えず、森や自然を守り、人が手をつけなくてもいいようになっていることを望む。
・これ以上、開発は進めなくてもよいと思う。これが島のよさである。自然環境も今の状態を守っていきたい

住み続けられる小笠原の未来を
考えよう
11 住み続けられるまちづくりを


11 住み続けられるまちづくりを
3 すべての人に健康と福祉を
8 働きがいも経済成長も
9 産業と技術革新の基盤をつくろう
12 つくる責任つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を
14 海の豊かさを守ろう
15 陸の豊かさも守ろう
17 パートナーシップで目標を達成しよう


優先順位Ⅰ
優先順位2
優先順位3
優先順位4


令和３年
無回答・無効回答 52 6.1%
その他 23 4.3%
生活基盤（道路、建物など） 10 1.9%
海の自然 77 14.3%
山の自然 17 3.2%
暮らし（経済状況） 216 25.5%
住み心地 218 40.5%


令和３年
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
暮らし（経済状況） 61 172 31 17 20
住み心地 32 144 90 15 20
山の自然 24 120 72 66 20
海の自然 12 130 75 63 21
生活基盤（道路、建物など） 105 123 25 27 21
よくなった 変わらない 悪くなった わからない 無回答
（遺産登録前から居住 n=301）